

平成25年度
第2回ひとにやさしい社会推進セミナー



講師の石川悟さん

1月25日「ひとにやさしい社会推進セミナー」をヒロロで開催しました。

今回のセミナーは、「起業（人生）計画×東日本大震災から学ぶこと」と題し、ファイナンシャルプランナーであり、21あおもり産業総合支援センターでインキュベーション・マネージャーをしている石川悟さんが講演しました。

石川さんは、これまでの人生の中で、「結婚・転職・移住・東日本大震災」を転機にあげて話しました。「福島県南相馬市に移住した後、産業支援機関で働き、その後転職したが、慣れない仕事内容と環境のため、うつ病になりかけた。相談に乗ってくれた元の職場の上司の言葉により救われ、再度インキュベーション・マネージャーとしてやり直すことが出来た」と転職での経験を語りました。家庭も仕事も順調に進んでいた矢先に

震災に遭い、避難を余儀なくされました。そして、青森市出身の石川さんが、県内でもいち早く被災者支援に名乗りを上げた弘前市に身を寄せるまでの経緯やその苦悩なども明かしました。その後、復興支援事業のため、単身南相馬市に戻り、「太陽光発電事業」や「除染事業」、被災地へ作業のために来る人々やボランティアなどの宿泊の受け皿として需要が増えた「農家民宿」などの起業にも携わりました。

講演の中では、家族の住む弘前市へ戻る決断をしたことについて、「地域のため、企業のため。自分とは、家族とは…。と考えたときに『故郷へ戻る』『家族と暮らす』との結論に至った」と話し、「自分を見つめなおすことは、将来につながる。ただ頑張ろうと思わず、目の前にあることをこなすことも大切」と話しました。

「インキュベーション・マネージャーはその人の人生に立てる責任ある仕事で『天職』だと思っている」と話す石川さんの力強い言葉に参加者は熱心に聞き入っていました。

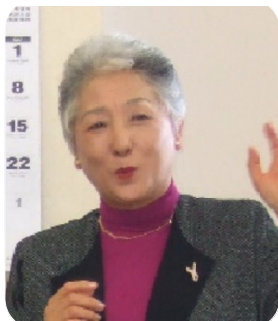
平成25年度第2回さんかくセミナー

2月4日、第2回さんかくセミナーを市民参画センターで開催しました。

今回のセミナーは、『がんから学んだこと』そして『今』と題し、乳がん患者会「ほほえみネットワーク」会員の赤石敏子さんが講演しました。

赤石さんは、「会社の健康診断を受けてはいたが、乳がん検診は受けたことがなかった。10年ほど前、交通事故で胸骨を骨折し、胸を触る癖がつき、しこりに気がついた」と乳がんが見つかるまでの経緯を話しました。

そして、「手術後、抗がん剤治療が始まり、髪が抜け落ちたとき、のショックは、告知のときより大きく、今でも忘れられない。正しい知識もなく、髪が再生することすら知らず、死を覚悟した」と当時のつらい体験を語りました。



「ほほえみ
ネットワーク」
赤石敏子さん



参加者と帽子を囲んで

手作りケア帽子



赤石さんは、自身の体験をもとに、抗がん剤や放射線治療などで脱毛した患者のために、弘前大学医学部付属病院「がんサロン」を拠点に、会員とともに、大人用、子ども用など、素材も工夫しながらケア帽子づくりをしています。「がんに蝕まれ、尊い命が奪われる中、自分が今もこうして生きていくことに感謝している。早期発見が第一。検診を受けましょう。まず、今日からセルフチェック！」と呼びかけた赤石さんの話を、参加者は自分にも起こるかもしれないこととして、真剣に聞いていました。